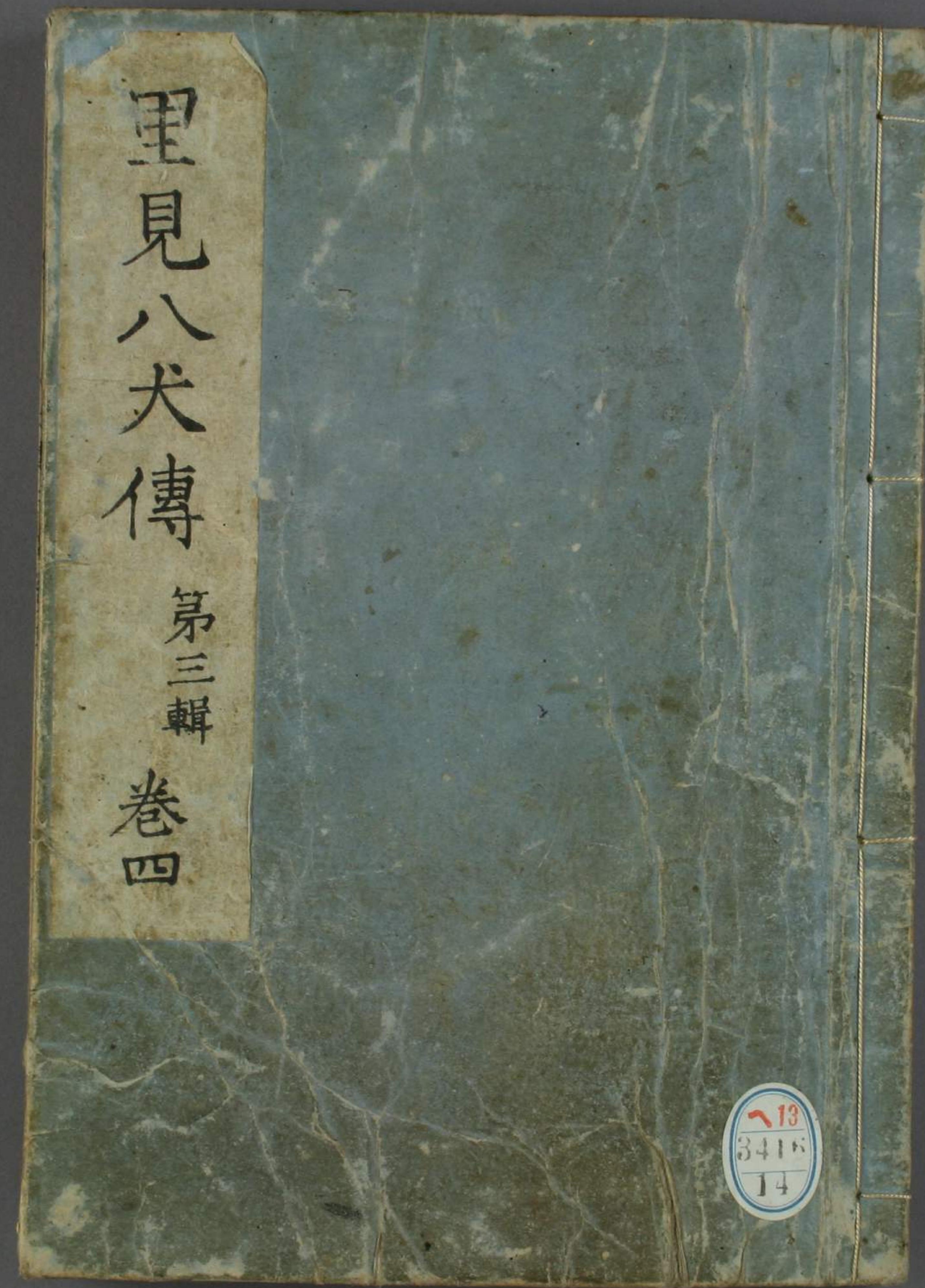


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

Tsukuba JAPAN



341b
13
14

こ風すとよもじの

四

松地
鶴谷院

南總里見八犬傳第三輯卷之四

東都 曲亭主人編次

第廿七回

左母二郎夜新人を畠奪ひ
寂寢道人見ニ圓塚ニ火定ひ

綱乾左母二郎ハ又夜さり。神宮の夜風ふ冒されん詰早よう寒熱せ
ふ。この日ハも習子立木をかゝる。夕飯もたゞどううち臥さう。かく又その
次の日乃午の貝吹く比及よ心地清くちくありかけとハモリ臥簾を奔め
や。やぐてや口を漱んとく外画小立知とば莊官屋敷のうふ當りく。物乃
響音のゆえふる。年の終りふ煤掃くかーりと不審くうぶよさん處で門邊を
立すまほとく。向近く笠んとまう程よとくられべ一個の莊客。右より一挺乃
鉈を携。左より五六根の夏蘿蔓を引提く。草野のかくようあるありす。

是則別人あるを。墓六が老僕背ぬる。名ハ吉あると見えて。目礼と見て
けど左母二郎へひらくと。手杖とて。先生あらうと。うれしきのまよ
用の虫拂矢常とあとが物とて。弓。矢。箭。音の響えう。彼へひふと尋ねば背ぬ
呼れくほくまふ立より。否。虫乾すみゆき。今宵背へのゆべ。天井ゐる蜘蛛と
搔拂ひ席薦の塵埃を打度。戸棧の修復障子の張更毛見の儲小いや
まく。目づくを廻むりそぞ。さかに庖厨の混雜。こと。离せ。この蘿葛ハ膾の
料小引りくある。月来の懇切甲斐。小資。又。ませ。と。うち。犬へ。左母二郎
驚かく。壯官の背とめ。彼大塚信乃。あらじや。彼人ハきのふの朝。啓行を。
候。原来首途の日を延べ。俄頃。又。替烟せらる。款と問せ。も果。と。違
ふ。信乃。あへ。昨日の曉方。下総へ。と。赴を。まし。今宵。あま。は。背殿。大
塚。め。え。ゆ。と。おえ。き。う。と。左母二郎。忽地。又。顔色変。と。その。背が。ま。何。

人そ。素より約束ゆて。款と言。素せ。く。向穴丸。北條。背ぬ。鎧を杖つ。現
理。騰の瀆。詰説。僕。定。まち。ね。ど。背殿。ハ。陣代。の。範上。め。よ。ど。
また。又。媒妁。ハ。属役。ある。軍木殿。すく。い。ん。聘。礼物。の。件。く。も。り。の。程。ふ。贈。ら
れ。え。書院。又。飾立。あり。且。密。の。替烟。う。と。バ。今宵。亥。の。比及。小。背殿。が。ま
う。本。ま。と。新人。肺寮。を。伴。ひ。ま。と。人の。噂。ふ。せ。え。う。氣。の。毒。あ。う。ハ。大
塚。底。意地。こ。う。と。伯母。肺夫婦。の。機縫。を。う。と。ハ。九年。要緊。の。時。え。追遣。う
ま。と。彼初物。を。他人。の。體。七十五日。生延。う。と。口果報。の。あ。た。る。よ。表液。吸ふ
づ。れ。う。と。小。も。あ。う。ね。ど。傷痛。を。限。り。あ。う。ふ。彼人。後。又。体。あ。う。腹。も。立。ん。口舌。も
殺。ら。ん。項。の。脂。あ。う。ね。ど。襟。又。著。後。當。世。あ。う。ど。こ。そ。ても。至。益。の。長。物。う。り。ふ
時。を。寝。う。と。吐。き。ん。晚。又。あ。ま。せ。と。鍼柄。を。再。び。肩。ふ。う。ち。掛。く。背。門。を。さ
う。ぞ。走。去。け。る。左母二郎。ハ。氣。色。う。胸。を。鎮。め。く。う。づ。く。應。を。一。く。も。氣。へ

とまぬ細輪の田井小立よく汲揚る水も湯と沸ん心の缺とくめよし。桶
引提てそまよ内入る吸出呼噴激嗟嘆堪れハ何せんまぐもゆふ
つぐほととちうす。濱路へ信乃よ稚をす。いひ名つけうとあよと欲伏け、
渠小今妻せらきよ。是非ゆか。そまよまよ景裏ふ亀條がられひひつてゆ
あり。然るを何ぞや陣代の勢ひよ附く約束を変改し既よ密事を委ねる。
これよ顧がうる。朝ふよいゆ日亀條が云々とりひくハ全く濱路と図
を。こよニ彼一刀を。掲えさせん為のまうた。この返報すハ今宵亦背の
般上がする。その席上へ踏ひく。墓六丈婦が惡事を顯す。せひのまく小
耳がすく。婚姻の妨せん否ぬ此くハ可也。亦伴の刀伏掲えよ。支黨
の咎脱き。口旗信乃が刀ハ竊み藏む。りがみ小有。このゆ遠ふ露頭
せぶ。ゆとくが罪重かづ。この計策究々可ら。又唯刀の伏隠。母

親が許した。濱路がる。伏のと伏とも。正トに證据絶す。すや争ひ訟れ
とも。訟を定めんよ。陣代も。誰も。よひづれ。かればこれ外理ありとも。房
あく功うるのと。うど。般上ハ必至也。忌人。忌ハ外理を非々枉て。獄舎ゆ
繫くべく。獄舎ゆへ。バ責殺さむ。この計策りよく。拙。彼老婆奴がちを
見越。密事を委ん爲のと。小濱路を妻せんとハリ。斯飽まで。ふ賺
さき。ハコが智の足りざる。似く。ども。その夜さう。この刀の奇特と。され
直ハ融き。ど。墓六奴ふ。刀を信乃が刃。うとんと。おひ。十巻秘藏を。ふま
彼奴ふ。ハコ。刀を信乃が刃。うとんと。おひ。十巻秘藏を。ふま。それ
快愉。ども。これも亦男子。月。づ。日。づ。ち。りひをかよふ。且。偽り。ゆめ。せよ
そ。が。母。親。の。云々。と。おひ。ひ。濱路を。今。更入。よ。娶ら。く。ハ里の批評も
面が。ゆふ。すく。この地。よ。住ひ。す。呼詮。今宵。宮六ホ。が。あ。伏。窺ひ。婚

姻の席ハタハタに血ハリハリを沃ハラハラべ。あゞ親子カヤニ背ハシマえ。一座の奴原鑿ハラマサめ。直ハラハラふ他郷カツカツへ走ハラハラるべ。否ハシマこれも拙策ハラハラ。あゞん彼奴ハラハラ多勢ハラハラあり。志ハラハラを乃遂ハラハラ。と。搦ハラハラ捕ハラハラらう。あゞ後悔ハラハラ其ハラハラ死ハラハラ。早ハラハラりく危ハラハラ死ハラハラせん。よ。竊ハラハラ又濱路ハラハラを搔撫ハラハラひく。逐電ハラハラにまちハラハラと。裏ハラハラ小濱路ハラハラが強顏ハラハラか。信乃ハラハラが眼前ハラハラ。よ。今ハ信乃ハラハラを遠離ハラハラら。彼醜郎ハラハラ小妻ハラハラせら。成款ハラハラ。と。久ハラハラふベトハラハラ。又ハラハラ心得ハラハラせば。も。と。伴ハラハラく。その故郷ハラハラを。き。と。何ハラハラ。後ハラハラさうと。あづん。り。す。不信乃ハラハラ。操ハラハラを竭ハラハラ。と。已ハラハラて容生ハラハラ。と。ハ京ハラハラ。又ハラハラ鎌倉ハラハラ。又ハラハラ遊女ハラハラ。又ハラハラ金ハラハラ。又ハラハラせん。も。と。易ハラハラ。又ハラハラ。持。倉ハラハラ。又ハラハラ。遊女ハラハラ。又ハラハラ。金ハラハラ。又ハラハラ。せん。も。と。易ハラハラ。又ハラハラ。持。氏ハラハラ朝臣ハラハラの重器ハラハラ。と。伴ハラハラえ。村兩丸ハラハラ。又ハラハラ極ハラハラ。これを。故主扇谷殿ハラハラ。又ハラハラ献ハラハラ。歸系ハラハラ。の。よ。ひ。が。よ。う。と。出外ハラハラ。を。向。る。と。あ。と。が。護影ハラハラ。又ハラハラ呼。あり。又ハラハラ成氏ハラハラ。朝臣ハラハラ。又ハラハラ進ハラハラせた。信乃ハラハラ。又ハラハラ。訴ハラハラ。と。呼詮ハラハラ。華洛ハラハラ。携ハラハラ。上。又ハラハラ。室町將ハラハラ

軍ハラハラ。又ハラハラ。石出ハラハラ。まれ。人ハラハラ。疑ハラハラ。と。百十全ハラハラ。の。計策ハラハラ。只。この。一歳ハラハラ。又ハラハラ。め。こ。り。吁ハラハラ。あ。り。と。口ハラハラ。又ハラハラ。と。回ハラハラ。又ハラハラ。と。答ハラハラ。又ハラハラ。濁江ハラハラ。の。底ハラハラ。と。う。と。ヨ。尋思ハラハラ。と。稍十二分ハラハラ。又ハラハラ。中ハラハラ。竊ハラハラ。又ハラハラ。独居ハラハラ。の。う。み。あ。れ。ば。入ハラハラ。う。な。所。調度ハラハラ。又ハラハラ。と。俄頃ハラハラ。又ハラハラ。要用ハラハラ。の。う。あ。と。と。此。の。家。具。衣。裳。を。活。却ハラハラ。と。これ。を。路費ハラハラ。と。志。ひ。く。又ハラハラ。集。め。又ハラハラ。父。子。脚。绊ハラハラ。又ハラハラ。草。鞋。の。外。又ハラハラ。物。う。行。裝。ひ。ハ。整。す。又ハラハラ。足。と。足。と。ぬ。この。甲夜ハラハラ。又ハラハラ。闇。の。進退ハラハラ。又ハラハラ。背。門。よ。う。へ。と。彼。未。通。女。を。よ。う。と。や。誘。引。か。と。へ。き。斯。と。奪。ひ。ま。う。づ。た。欲。と。尋。思。又。果。と。も。の。日。の。ま。暮。い。や。ど。う。ち。仰。ぐ。天。又。往。方。の。定。め。ち。れ。浮。る。雲。の。不。善。奸。惡。伎。俩。又。暇。う。り。け。と。こ。ろ。程。又。濱。路。ハ。既。又。必。死。乃。く。ご。と。乳。色。又。顯。さ。べ。假。染。又。と。病。著。と。炎。暑。又。い。と。素。髮。か。う。と。人。後。う。と。恥。き。姿。又。う。と。見。と。と。勧。く。髮。を。結。う。と。い。ま。ど。臥。房。を。出。ざ。と。だ。二。親。そ。の。形。勢。又。今宵。の。替。烟。推。辭。へ。せ。と。と。ひ。お。け。と。バ。心。放。ふ。黄。昏。

時へひきあひのそがりまふ紛まゐるをかくそめ日ハ暮果く初更近づく
甲夜暗み瀨路へ臥房を脱ゆ。潛々納戸の縁類侍の外面へは出で。背門も
人の出入繁う。これや何れと元和とありひるゆき土庫の間の離色の者を
よせと遠り出とバ生憎よ顔かきよ蜘蛛網へ女雛を包む吉野紙對喪る
風情きよ。まゝ納戸の背庭ゆき。頬うち假山あり。夏樹の繁枝蔓も拂ひ去
入のかくえぬぬうふ如法圓夜のるあひべ。あく究竟のれそと死天の前途と
急ぐ。されば臥房を出とぞ。燈火を暗く。廻の内す臥ゆ。ゆく枕と
小横をうち被ふ。あくきぬ隙みと推考る用意の纏帶引伸く。築牆の
ほりうち松が枝又投す。もと經とんとまう物う。心の闇と天の烏夜。
降とる帶の端ゆくも搔掻る。頭によじてあひ。こな身いのちの悪報とて實
の親も同胞也。ゆくとくせりと名をあらむ。よふ親あらぬ親達も養育乃思

年夥。寧くもくらぬ不孝の罪をとひだねよ。あく松とも二度踏ぬ女子の節
を。とえきとまき。操教の丈小背んや。さけむくゆ心つよたハ養親達誓を破り不孝の富田栄
のう。ゆき。利を樂ひゆとも人の命ハ限りあり。惜ひ。身後の名又あくどや。そハ恨む
ともあらまよとの。甲斐文あたハ現女子あ。つと彼丸も遠くもあくぬ道の
程とく使ふあが。天を隔くと飛鳥の翅うれをつふせん。うや俱寐もせぬ。も
あと。下とひ親の許さ。妹使の契あ。磯海。うれ歎く。又身を措ふ。
今を限との命ぞとあとを移へ。こそあとをもせど。効あたなよべいゆる夜小室
づれのあく。別と鶴の音を恨し。よう猶強顔を。今撞初更
の鐘の声。玄中の天をあく。逝く。よしや真如の影頼む。月夜鳥の啼き
えん君が一宵の言の。えふ露の命を惜ゆ。墓あくなうん夢の迹。傍人を
立。操作へかえぬこの松を妻の標石と。君がゆく。阿伽瀧頂贈

轉の水の一雷。受きふことをぞ不二說法。たゞ聖の讀經ゆ。まゝ成佛志行
 らん今般不物をかり。とせどもかりふ良人のゆ。親同胞のゆ。さえよ心ふかる
 歎たのう。潛びとまれどまのびかひ。むとうごちうる竊音。かづび涙の露
 深く袖うち濡れ。夏草も秋のやみ草と戰ぐめ。さは徑左母二郎へ時刻を
 測定。さて幕六が。背門よう潜へり。人あり。彼れも挑灯引提く。守人あり。入る
 人あり。便こうと立退る。あほ外面を彼此と密くかうら達す。母屋の
 背後小立在つ。ほゞ遠一あがむ。ハ築牆の朽つる。あらん。そが根良小犬の出入
 さる。ぞうと。頬さんあり。とぶ。是究竟と竊よ。放び。かを。細溝を反越て。そあ
 頬よ。跋入る。か朽つる牆の癖ある。バコが入。隨ふ廣かり。樹枝の下小身を
 起く。足の壞を。拍落し。家内の様子を考る。よひと暗けと。其れよも
 乃別。ひと只左邊。あら白壁のみ。烏夜ゆ。ほのよ見え。原未。あら納戸
 の背後あり。彼土庫の間を遠ミバ。常の濱路が。どろと。り。小房へ遠。ふ。そよ
 らの案内。ハよく。ものあら。孫ど。あみ。が。よ。難き。よ。ハ。あ。と。り。そ。じ。を。心。あ。く。よ。
 樹枝を倚。樹下を潛。まく。稍假山の。ほど。る。み。到。き。バ。前面。み。女子の。流音。そ
 ち。驚。だく。透。一見。つひ。ゆ。て。彼。く。小濱路。あ。天。の。與。と。放。び。く。仰。あ。く。も
 近。つ。そ。唧。く。を。仰。く。な。く。す。原未。濱路。ハ。今宵。あ。ふ。簸。上官六。を。り。く
 嘛。ひ。く。經。ま。ん。と。き。る。み。や。あ。う。ん。渠。が。節。操。を。竭。ま。り。信。乃。る。べ。を。放。り。れ
 あ。う。づ。れ。う。定。ふ。彼。の。見。き。け。い。ど。も。大。く。ハ。こ。と。き。あ。え。ー。そ。ハ。誰。み。も。あ。れ。嘗。ユ。
 落。る。真。玉。を。碎。ん。や。さ。ふ。と。く。足。を。翻。く。檜。枋。よ。れ。ば。折。ゆ。一。濱。路。も。か。う。
 尾。く。松。枝。よ。掛。く。帶。の。端。よ。携。く。又。潛。然。と。う。ち。注。く。涙。の。隙。ふ。念。仏。を。
 十。遍。む。う。り。唱。く。經。死。ん。と。き。る。程。よ。声。を。も。う。け。ど。後。方。よ。抱。禁。め。く。引
 か。せ。ば。吐。嗟。と。叫。ぶ。口。小。く。伏。掩。驚。死。る。あ。左。母。あ。り。左。母。え。う。ひ。う。け。る。死

今宵の婚姻死んと決めたり。心裸を冠す者も尊く奉り。
親達のむぢんうつこまこと腹みをえゆく。ひでん身をねくまぢんとゆふ
誠の空一ふくぐり合ひてどもへあく。必死を救ひハ天縁みぢん歎くと
久と耐ゆるを耳うそうナギ身を擣て。すら扇くよ振放ち。喧玉礼うる白徒
かま他夫小伴ゑ。こゑへあませばりゆく。臥房を出くからういの命をあらふ
やまきらべ死。益のる代りんよう。其れ退きどや。敦園く復纏帶ふりと組
るを遮禁めく冷笑ひ然笑てハまほ死まど月づる日づる口ひを運べ。又
母親う云云と窮ふ許せつあまバ。簸上を囁くハまがふ。苦節を竭むと
ひひーふのなまくハ還すやかくまどや。末をがつまれ信乃がる。ひひ絶まハその
方の破滅否でも応でも携くいぬ。とく出よとふを食れバ。又拂玉柳
の風よ奈よ翠の鬟。共よとぬよ鹿草の黄縁る松を眉めく。彼首へ

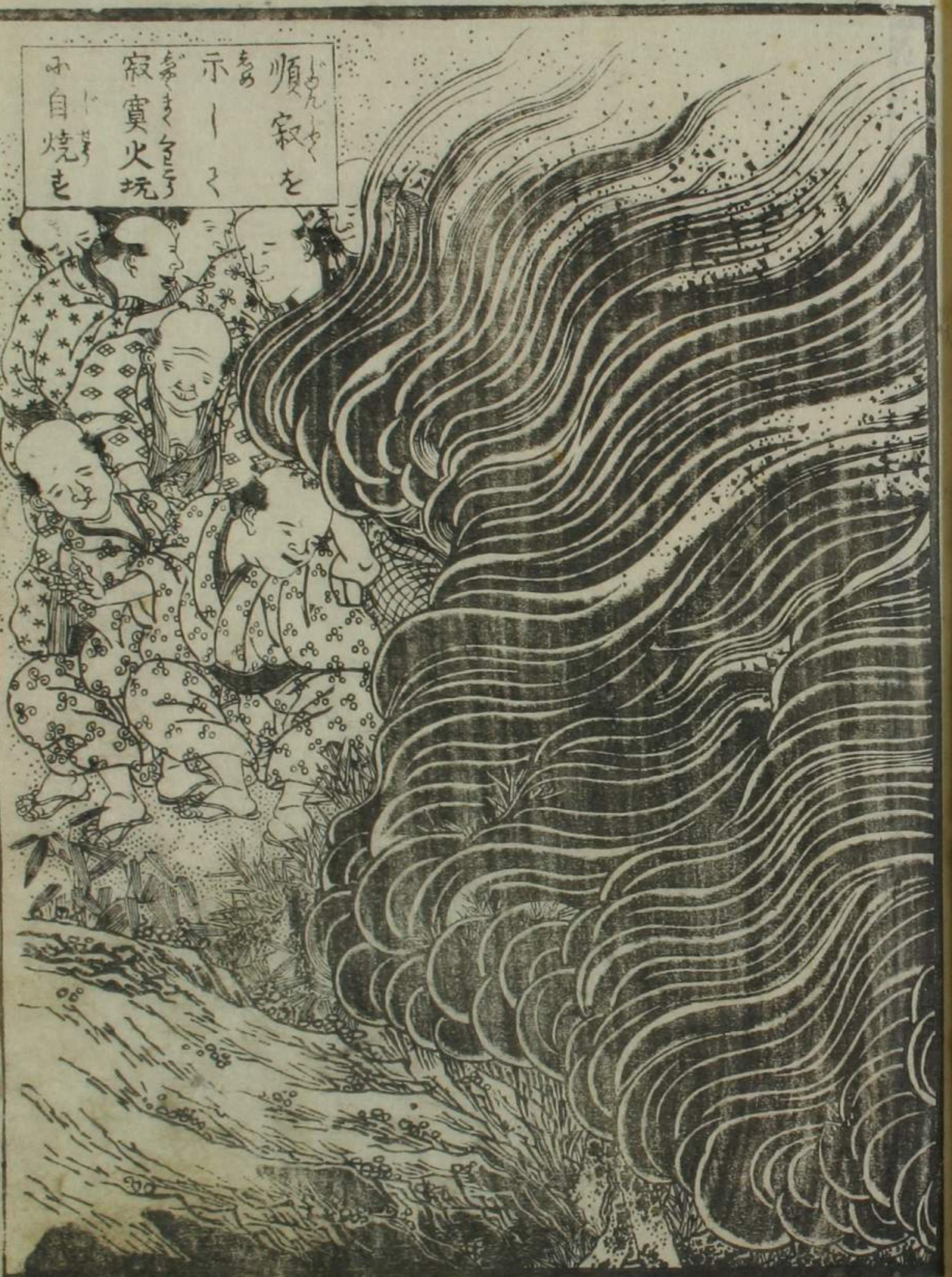
逃と此首へ潜ア。鳥夜よ紛まく躲きとるのまう。獵場の雉子雄不弓
きよ蓑陰ふ声もひ揚ぞ。宿接ふむかく入られぬ憚の内外よ逼る。呵責
の苦く追れく礪と泣沈めバ。鉢一や。と襟上を搔撫ミ引立く。も拭衝
きる猿鱗小腋よ楚と搔ひづ。濱路ハかほを犯病後の瘦穴木免よ
捉くよ夜の蟬。声づふきく哀れす。左母二郎へ既よ斯女子を小腋に
抱ひて、舊の寃より生じてど。投何れよ脱去らんと見かくる片頬よ纖
帶の障え絞左ひ下丁と招り。是究竟とかくまく内にと登る老松の枝よ
侍ふ築牆を辛く衆諭うも外画へ立く。跨ぐが如くも渡し構え
音を絶つ蝶蟻の屢一隻も失ひぞ。豫て用意の行鞋足よ信くもねく
き。去ぬかよまし宿小庵厨ふ。或の土器。饗膳の調理庖丁敷正へ。當下墓六へ
書院の床間よ蒲團花を立懸幅を掛けて。あぐらふ。初更の鐘の音をうり。時

刻近く見えぬ。とさすよそ。龜の條を召す。のまゝ。臂歎の東まほる。小今一時が程へ
あふド。夏の夜の深をとれ。いづまごうりで止へ。濱路。云々と。せえあふと。
衣裳を著させぬ。とひ。龜條點頭。吾倚も如此。おひ候。ようぶ
暇あつま。暮てハ臥房小立。ようちねども。湯漬を此たうべ。婢们ハひ
候。髪支結び揚。衣をえき。易かうべ。あまいそがや。とひうけく。
そが臥房へ赴。ゆく。宿もあく走。事あつる。とひ立。ハ墓六
驚て見。あも謀。何る。すうんと。問せぬ。眼を睁り。幸。幸
き。寝て見。あも。濱路ハ纏を脱。ゆく。何地。あえん影。せだ。り。廻へや登。え
と。多ハ浴室の四隅。隈。あり。ゆうじよ。どう移。遂電せ。あくと。
告。ハ墓六。おり。を。拿。花瓶をうち落し。流す水を。袴。乃。裾。かく。
拭。ひも果。を。身。起。そ。そ。大事。不及。ひ。然。と。も。騒。ぐ。べ。うす。いで

且く件の小廝ハ喘き走り。左母二郎の宿所へいゆる。呼門にて心せざし戸を
推開て見りハぬ。ハさうん。調度もシドウ。むろもあらう。空房ふもく。そみ
為体をかく推せば逐電をつぶ疑ひ。と告る。残坐していと。あく夫婦へ
送恨小堪む。俄頃又僕僮们を召聚。云々の事。あれ。その密夫も
左母二奴あり。遠くへ西下。とかびある。小疾追蒐く引掲來より。女ホが
す小衆とども。濱路をよ捉逃ーそ。灯をかぶまく。ふ。這奴ふをされ
て。小衆とども。濱路をよ。捕え。けん人を追ふ。ハ闇丁とよけ。背ぬハ老。足より。とも。今宵を
アハ氣城へとよ。誰か。あき功。よ。よ。賞錢ハ過分。又とせん。誰と
誰と。東の。を。彼と。彼と。西の。を。必める。ま。と。と。兩三人を一隊。既小四支
部。の。瞬間。小參。出。遣ても。と。ふかく。夫婦が心体。ハ。亀條。ハ。頭痛。と。病。と。
み。ぐ。推磨。む。額。を。擡。お。ま。べ。と。六。ひ。も。う。け。ぞ。曩裏。又。信乃。を。禁。人。と。く。

左母二郎を引入。ひだり。され。濱路ハト。を。も。外へ。あ。う。代。程。さ。と。猜。し
錯。へ。と。偷。見。の。隙。護。が。よ。と。人。を。も。台。ゆ。り。悔。れ。る。代。を。く。け。り。と。人。を。も
身。を。も。怨。ば。き。ハ。墓。六。も。亦。嗟。嘆。く。過。り。る。ハ。悔。て。あ。か。く。と。ど。や。く。そ。と。當。る
今宵の婚姻。も。や。胥。入。又。程。も。形。そ。の。折。濱路。を。ね。く。来。だ。ハ。何。う。り。り。ん。と
屈託の頭。を。俱。又。病。一。う。浩。れ。又。土。太。郎。ハ。曩。裏。又。墓。六。又。相。譚。ミ。神。宮。河
ふ。く。人。を。見。ぞ。信。乃。を。亡。り。と。も。つ。と。ど。そ。の。水。煉。少。敵。一。く。そ。く。謀。合。期。せ。ど。
勞。せ。の。と。み。く。功。ま。れ。ハ。墓。六。これ。不。足。め。と。辛。苦。錢。も。多く。ハ。取。を。せ。ば。か。く
と。土。太。郎。ハ。昨。夕。の。櫻。蒲。幸。あ。と。ぐ。鐵。鈔。一。丈。も。な。と。た。ま。く。小。素。よ。り。不。敵。の。癖
あ。者。あ。と。へ。彼。莊。官。を。豪。求。そ。些。の。酒。價。を。済。む。と。と。ひ。く。夕。涼。う。け。く。訪。ひ
あ。の。背。門。よ。と。入。ま。る。墓。六。も。と。く。ふ。く。忽。地。あ。る。小。飲。び。土。太。郎。飲。よ。と。折。ユ
よ。く。ト。そ。來。ま。と。立。迎。れ。ば。否。さ。ふ。よ。く。も。い。う。ぎ。じ。あ。る。夜。の。辛。苦。錢。相。場。外。で。直。す

あをせめ。きりあらうて。此へ増酒價をとり代禁めく。是はまく。そ代今更ふるす软ヌ
あきえぢ。あまことよ。ふりよ。えんぎ。
更めて汝を懲ん。今宵ハ不慮の難美ある。その故ハ箇様ことと辞せし。一く
とをあみ。むをも。い。ち。みをもをえぢ。う。かく。じ。と。とをあみ。
説示。しきぶ。女兒をおも走アリ。密夫ハ汝も認ス。神宮河トモ同船アリ。
納乾左母二郎といふ。久圖宅の老弱迷失。既に追捕を裏。直。彼木
の木でも心りて形。今招き。とく汝が妙な資をゆふと下さき幸ひ。かくて
己が運氣は憑り。とく追禁。引榻。あバ辛苦錢ハヨヌ少を論せ。偏ふ憑む。
と夫婦。とく并ぬ。おも相譚ヘバ。土太郎。仰く。うち点頭。現今あくへ来る。其途
ふく豫て相識る行轎夫。加太郎。井太郎。ホグ。行客を乗せ。も足を論ど
ぞく。とそが。乍り揚ざれ。鳥夜あき。ば。そ残よくも。只。井太郎。あくめい。も
そく立休。とく過。原来件の行客へ。左母二郎。又疑ひ。す。轎子。も乗
素。あく追ひ。愆あく。とく。ゆれ。と。押替。乃。一刀をとく。知。追与。食
て。おび。脣小跨。とく。で。ぶりよ。心つ。ト。翻。又。搔籠。瞬間。雌雄。残。ねく。かく。人酒暖
めて。あも。あ。も。懲。も。や。と。急ぐ。夫婦。を。え。も。か。く。ど。う。は。甲夜。圓。小指
妻の滅る。が。如。く。走。去。け。る。詰。分。両。頭。寂。寢。道。入。肩。柳。と。り。ふ。怪。有。の。行。者。あ。く。
原是何。四。の。入。氏。あ。く。を。あ。く。き。歲。の。夏。す。ま。陸。奥。出。羽。を。券。縁。今。茲。へ
下。野。及。下。終。又。赴。る。遂。又。兵。荒。又。兵。錫。又。愚。民。又。尊。信。せ。れ。と。う。そ。修。法
る。て。く。き。嘗。蓄。薪。を。積。そ。烈。火。を。踏。む。自。若。と。く。と。足。燒。爛。と。う。と。足。不。よ。う。と。人
の。古。山。宿。名。占。ひ。又。病。厄。と。祈。禱。と。ふ。応。驗。あ。と。く。り。年。來。吉。野。葛。城
三。熊。野。へ。さ。ま。う。る。駿。河。の。不。二。肥。後。の。阿。蘇。山。薩。摩。の。霧。降。下。野。の。二。荒。山
で。ハ。え。う。ま。ん。れ。い。ま。せ。り。が。ふ。出。羽。の。羽。黒。山。ふ。ご。靈。山。名。勝。を。い。く。遍。と。あ。く。登。陟。一。神。人。異。物。ふ。邂。逅。一。



不老の術をぬりとがん現その爲体。烏髮長鬚。小一尺。壯年の人と異
ある。もとあはせども百年前の事迹を聞く。應答眼前見る。説示さる
もの多けど人食敬信感服せり。又この肩柳へ左の肩尖小一塊の瘤ありけり。
此瘤小より多く。その形體斜う。人亦そあるが如バ。肩柳答。こゝが一身のいふ
常。又佛菩薩宿。せまく。左へ是天行の順路。肩ハ肢體の無上所ぞりて。
東方。天照皇太神。西方。釈迦牟尼佛。さく止宿。と。やまと。といへ。かく
この夏月。肩柳。ハ。豊嶋郡。み。鳴錫。と。愚民。木。示。を。や。夫ニ思。火宅。人
穢土。又立。穢土。を。あ。す。皆慾。又。耽。又。嗜慾。又。耽。又。愚民。木。又。示。を。や。夫ニ思。火宅。人
廻。又。好惡。又。り。傾惱。又。執。四大。原是。何。礼。又。欵。來。ち。以。ベ。悉。皆。空
も。十。惡。何。處。又。も。到。る。省。き。ハ。一。妄。想。の。ミ。この。故。小。諸。佛。思。趣。出。現。一。く。
も。ど。り。ま。濟度。又。暇。あ。り。と。り。だ。凡。夫。ハ。無。邊。無。數。え。佛。緣。あ。た。り。ハ。無。佛。世。界。又。生。一。佛。

性うれひも。畜生道中ふ墮。縁度普。か。づ。が。る。ふ。世。尊。涅槃の室。ふ。入り。く。
寂滅。為。樂。と。教。あり。現生。あ。う。の。ハ。必。死。有。り。形。あ。う。の。滅。が。る。か。り。機圓
を。も。既。又。満。ると。き。シ。ハ。太。陽。の。没。る。ぬ。積。氷。の。消。る。ぬ。誰。ク。一。人の。こ。そ。ま。る。の。あ。う
ん。や。か。き。べ。と。身。を。天。堂。よ。か。一。納。く。彼。岸。の。禪。定。門。よ。か。う。そ。よ。け。き。
よう。ま。く。來。め。六。月。十九。日。申。の。下。剋。日。沒。の。時。小。丁。正。く。將。又。火。定。小。へ。ト。ん。と。き。
そ。地。ハ。豊。嶋。本。鄉。の。ほ。と。圓。塚。山。の。麓。う。べ。深。信。有。縁。の。道。俗。ハ。ち。の。く
じ。そ。そ。ふ。せ。一。束。の。柴。を。布。施。と。來。會。せ。よ。と。ぞ。徇。う。り。け。さ。う。ね。ざ。よ。尊。信。を。う。る。里。人。ホ。ハ
これ。を。竹。ぐ。噴。嘆。し。昔。よ。り。入。定。の。行。人。あ。つ。と。と。火。焚。け。ど。皆。生。あ。ぐ。土。中。ふ。る
の。モ。火。定。ハ。最。も。有。か。う。べ。權。者。の。入。滅。を。お。ぐ。ま。で。ハ。何。の。時。を。う。期。く。べ。れ
と。く。本。日。を。俟。ぶ。る。あ。も。あ。く。か。く。衆。人。ハ。肩。柳。が。指。揮。小。隨。ひ。六。月。望。の。比
より。走。て。圓。塚。山。の。麓。う。き。ち。る。や。う。も。り。ち。く。ど。ぞ。ま。き。う。る。く。黑。木。と

八犬傳三輯卷四

○山青堂藏

わく柱ととと壇下より廣く穴を穿る。その廣さ五六間深さと丈餘も及ばず。
柴夥投入とてバ虫の跋びた隙もあり。抑この圓塚山へ豊嶋本郷の西小あり。
翼も蒼海杳渺とて安房上総の盡れとも観るべく西ハ連山嵯峨とて。
管根足柄富士の雪夏あほ寒れをうちぞす。謙倉海道あづれども木
曾路へかづ順路。上總下總へ赴くめ。あとと過るを捷徑ととする程。
そや本日ゆきあり。寂寢冥道入肩柳へ白布をり。頭と包み。ひう。布の
淨衣を被る。壇の中央うき胡床又尻とろ。みよ一箇の金鈴懸振鳴下し。胸又
一面の明鏡と掛けぬ一條の輪袈裟と垂る。ほどと兜巾を載ざり。のみ
打扮異様。現念の眼を閉じる。甚麼する經を讀みやあらん。朝より
暮らすまで。その音声濁らむ。涸れむをり。小人を見る眼光ひと凄し。壇下より
彼此の老弱男女群衆圍繞。蘿葛山田の邊あらぐ。人あらぬ頃もなき。

頭へ上を照らる。夏の日れ堪まくて。こゝに火定ふ入りみれと罵あがり樹下を
索る。聚ふもヨスカうけ。かくとも。黄昏ちくあらう。豫よち、そ残ゆる。あ
件の柴火を放て。巴煽みて燃揚る。暑中の猛火。それ惑ひ。壇のわと
アリある。あらん。散動立退れ。當下肩柳へ經よ。果て平承金珠を鎗と
推す。霎時念とて壇下を直下し。声高す。小讀く。昔如來の後父第
徳が恋ゆく。送代よ哀驩。その一王へこれを追ひ。南岸ふ營軍。その一
王へこれを迎へ。北岸小來候せ。阿難尊者。二王の相争と聞戰殺害せん
ひ。火を牛。骸を焚く。中よ。拆た。一ツ。南岸小障。一ツ。北岸よ。障く。その
聞諱と禁めあひ。その功德廣大。この他の道德自焼。或へて世れ

諸仏の獻り或ひ衆生濟度の方便載と聖經は灼然と食道辱く三宝より事も勤行小年を歷きども。自他の利益より普くど爰小恩癡の薄徳を省きハ速臭骸と解脱し。むく身垢の淨土小到んと欲き冀ハ有縁の道俗身滅不隨者の財宝を棄指して未来永劫の善根を殖よ。設夫一錢二錢を捨るみ一劫ニ尊の茲航又衆トん三錢四錢が捨るみハ三藏を自得く。四難もあく小易るべ。五錢六錢を捨るみハ方小五覺の感通く。六塵を掃除せん七錢八錢を捨るみハ七難ハ苦と出離く。墮生菩提乃機圓小あそん九錢十錢を捨るみハ九品の淨刹小托生く。十界能化の菩薩とあくん如尼の善男女如是の財を捨てバ身ハあほ苦海又在アと從ふく。則貞寂の同行く。いふとあるハ五慾の財物を焼却く。而てその才小代を量の徳奉と播殖く。ゆて清果生ればあく。勸化隨縁怨がく平等利益疑ひか

し。と説勸る声の中より群集の老弱火坑を望く。破落哩こと擲ら残へ落花の風又隨入如く。雪ヨ吹の空心拂ふ又仰く。幾十百とりの火走るを。そみ銭既又投りとば肩柳自葬の引道すく。声高す小偈を説く云。

西方葬釋尊一年。

撃然發興石火。東土燒道昭時。

閃々炬燄揚播。

言靜相眎眼十眼。

看灰裡結清果。

吟誦まるニ三遍めく。煽くろ猛火の中へ身を跳らむ。投入と火燄發と立冲。膏佛火穴焦と骨もとめ。倏忽又灰燼とありて失ふけり。これをうる衆人も感涙を禁めぬぞ。同音小念佛も。且く鳴も止ざりけり。かくも山寺の入相の鐘音に。諸行無常の観念も。僕今ゆくのゆかびえて。おのがすく帰去人東西より。南北よ散らせ。亦よ燃る茶毘の坑許。見る。夏虫の火虫の外小物も。あらねふ初夜過く。月あくたまよ小挑灯。

いと暗めても挑灯の火光が疾視一眼へ違ひど。その両刃へ人目をうり。庄士よ
そぞろくびりー。あれ
手掻拐掣兒已むともまふ好るたまく。空棒振くやも選。息杖一本。酒一
盃。建場ぐ歯の利く板橋の橋を首丸。板の井太郎。その相肩の加太郎。と
ひとで
入ふをとどく。蜘蛛冥利。挣子は由断。みつの夜の絪。挂玉虫を。うきよふ
他もよ落とぐれ。とんあへあらう。腰あり盤纏も衣くさみ脱ふ。亡もよ。と
訛声高く左右よ。哮マカミ。ど些ニも騷ぐ。ほざく。敷蚊。们耳邊よ
附く物白奪。欲くへこの世の暇う。いで取せん。と抜打。よ晃。と被せ。輕
あも。ひよつま。めて。ち。う。こ。も。う。き。と
刃の電光。右邊よ立。か。太。郎。へ。肩。を。砍。く。と。仰。反。う。透。を。あ。う。せ。と。井
太郎が。打。く。む。息杖。受。あ。が。く。二。三。合。戦。程。よ。加。太。郎。も。亦。身。を。起。く。
左右より引夾。野火を燭ふ。追。う。送。よ。叫。ふ。ち。く。声。井。太。郎。ホ。血。氣。ふ
無。只。管。競。へ。ど。轟。劍。槍。棒。卷。法。ま。ど。ハ。一。点。が。る。も。あ。う。ざ。と。ま。動



とを駆惱されく。身残り倭傍乱打足場。草木夏草を秋の紅葉と
 漆あせり。また亦左母二郎へ武藝の達人あらざるとも。食う刃へ名ゆ
 あ。村雨の宝刀あれ。打振る毎水氣をもく。大方小散乱。茅葺ふ移す
 火滅。茶毘の光も衰く。足下暗く。あらめ。鐵を断石を辟き。刃の寄
 特掲焉。特め憑入る後袈裟。加太郎ハ復肩と割く。身鮮血を塗れて
 仆是。そが隙。井太郎へ躍れ。後方より。組む火内りと振放ち。足を
 駆く。撲地と蹴る。蹴らまく。撞と轉轍。起んとひを。細頸
 丁と打落して。血刀引揚く。吻く折。土太郎ハ稍追蒐。滅残る火も透
 え。声をもかく。背より。晃き。刃の光。左母二郎ハ眼を。吐嗟とむか
 身を反れば。置く。轟。大刀を拂退。信と睨。賊二人と。身。原来
 女も支黨の引剥。そとひせぬ。身。刃を内。と食直し。夜神宮

の游舟。面を認り。瘦浪人。戸田河條。名の賣れ。土田の土太郎を
 忘れ。砍吾を引刺と罵る。豕を抱かく。臭ひをもたらす。汝がう。成みよ
 よ。きのう。似う。頭顱。あを偷見ふ。うぐー。論へ益。莊官殿。頼れ。もくねうき
 れ。贋物。う。復え。あ。諺。大蛇の道へ。蝮。識。夏山里。甲夜よ
 う。あ。圖ら。物。う。この雲ぬホハ。櫻蒲夥計。そ。折督と見え。う。あ。も怪
 う。行客を。衆。せ。間道を走ア。あ。ん。と。名。ひ。憶。う。圓塚の茶毘。う
 き。先小露と消す。井加兩太郎。ぐる。え。仇人女の子を。揚。拏。大罪人。捕。榮
 あ。田畠の西風と。欺く。あ。ふ。莊官殿へ。裹。せん。さ。も。走。う。砍。争。ふ。砍。と。罵
 せ。め。つ。ま。ん。さ。あ。う。迫。う。面。龜。前。の。二。人。よ。り。や。ま。せ。ど。も。あ。る。と。ゆ。大。膽。不。敵。の。癖。者。刀。を。揚。く
 よ。せ。立。ぞ。あ。る。鳴。呼。が。よ。れ。追。捕。呼。ア。櫓。械。一。本。板。三。枚。下。ハ。地。獄。乃。境

まく。そが胸前を蹂躪。又暗居て刺を刀尖へ名詮。自性土み縫と。土太郎へ。
樂よみ足を動き身の字みむ。そがまく息へ絶けり。抑ちの
ど。土太郎。加太郎。井太郎。ホモ。豊嶋の二太郎と呼とる。水陸の惡根たり。
と。年來ちびく人を害ひ又ちびく物残掠く。姪酒賭奕の場又遊び上を困
法をあそき。下へ縣吏を脅とせき。餓あるとえへ鄧通が隸をほり殺く。
食へとも飽アとせき。錢あるとえへ喪家の狗のどく。餓くとも恥とせば世ふ
云兎とく忌憚らむ。天罰ありふ疎うき。又唯奸惡邪姪の癖者。狃乾左
母二郎。殺さき。毒をくり毒を制げる。天の配劑玄妙あらざり。向詰
休題。左母二郎へ辛く。土太郎と撃り果。刃の鮮血を推減ふ。生血を引く。白露又濡く。あくふましくこの刀の奇特。又感嘆淺く。嚮よも生れ存亡の際ふ立く心えつ。現立が衣の濕り。野火の滅し。村雨の

刃とう成を雷ありて再び見つる刀の威徳。仕官の梯壇へとうち戴たる
鞆ふ納め二尺帶を引列衣く。腕の浅瘻を括苗滅果んとせ一坑乃火よ。
残きる業を投へとば又烈こと燃上す。風のまふく彼此うる茅萱ふ移れ
いそく白昼の如く明るき。かく左二郎へ轎の内ふ伏沈む傷乃株又尾城かけ。やよ
技出く。その縛を釋捨とば又潜然と泣沈む傷乃株又尾城かけ。やよ
濱路。そもそもかくての腐縁泣とく後へやかき命を的の由美村とう。これ
山越ふ二人の大敵。かく多く藏せ。そく誰がゐるとひき。皆是を元氣をも
をや畢竟浅瘻を負ふるのみく。恙あけとばとよけと。これ死あがひん
身も亦。ハトキよと辛苦受んかまざらふこれをうそ。強顔へりてあくま。
さむが心ゆき。親達の密議を告ん。夜神宮河の渙獵を竊み
信乃を害せん。秀門出や。あらあら。かとば墓六莊官が不覺ふ水ふ落
る。室へ信乃を誰引入。水中ふ殺さんぬの。然ども信乃へ水煉をよく
まのめや。ありとん土太郎さん。歎く。莊官へ阿容こと渠又抱き
宿め。前面の岸又登さとられべ。その謀成らざる。そめ前の日ひちん
弟の母ぬが竊み吾脩の宿所を訪ゆ。信乃を許我へ起行。意中の
機密を物語り。初里人ホ又媒妁せられて。信乃又濱路を妻せんといひあつて
ふる。庄官殿が秘藏の一刀。それを背牽出ふ取らせ。今ゆく明く地よ。
返せといひ必推辞ん。よく如此。よ講ぐ。もの折あん方へ船中。信乃が件の
一刀を。庄官殿の刀。も。腰替。其如ふく
信乃へ恙あくとも。這奴許我へ赴かく。何更をうき。とへ。鹿忽の羅を糺
ふ。縛首刎ら。も。相謀。も。小浜路を妻せ。職
禄副。も。讓らん。とり。も。推辞。も。遂。も。密議。も。衆合。船件の刀を。腰替

八犬傳三轉卷四

山東堂

一。おん身を妻せんみの。そのうきへりゆく。弓好曲ふ與てべき。かく
此彼両刀と。揭督人とせよ。信乃が刀の中心より忽然と水氣雷電
夏夜は寒光。ひくも得て。宝は愛て。つるく視て。熟思へ。前
曾領持氏朝臣の重宝。小村兩とり。宝刀あり。その刃。鞘を出しがち。うつ
水氣雷電。殺氣を含み。打振を。刀尖よどむ。水挾霧乃如く散乱
と。傳せぬ。是あべ。さう。代墓六莊官が。信乃ふと。と爲與。とりふる。ハ
甚不審。信乃が親番作へ。その父。西作共。偕。春王安王。俱。あり。結
城。又。金城。せ。と。バ。この刀を。持氏。よ。西公連。ふ。傳。を。春王安王。率
き。の後。番作。竊。携。大塚。退。隠。彼人。没。今ハ。一。モ。信乃が佩
る。小疑。かへ。得。名刀を。莊官。づ。れ。が。ふ。小落。俗。より。猫。ふ。黄金
あ。う。ん。且。彼夫婦。が。欲。ま。う。所。と。と。爲。愛。この刀を。揭督。させ。と。ゆ。ハ。あ。ト。だ。

一。刀を畧せん。あ。又。愛。う。か。もう。欲。甘。言。も。憑。か。ア。さ。ハ。鄙。言。み
毒。を。食。べ。皿。ま。ぐ。詠。と。り。バ。今宵。の。ふ。そ。と。と。り。ひ。ふ。け。バ。信。乃。が。刀。を。こ。う
さ。や。金。城。金。室。小。納。替。又。口。づ。刀。ハ。莊。官。の。室。又。納。め。ユ。合。よ。刀。を。う。ま。金。三。方。替。上
か。え。く。且。そ。め。を。こ。な。ふ。莊。官。夫。婦。ハ。約。束。の。脣。も。お。ぎ。乾。ぬ。程。小。陣。代。簾。上
き。く。宮。六。よ。娘。縁。を。結。び。く。日。や。あ。ぐ。今宵。の。替。入。侍。ば。て。も。腹。く。く。始。く
悔。一。放。す。人。を。殺。く。こ。ま。も。亦。死。ん。と。う。ひ。決。め。う。り。ま。ご。おん。身。の。心。が
ち。ト。キ。命。こ。換。る。の。く。え。れ。バ。こ。り。あ。く。お。ん。身。を。ぬ。く。ま。い。憎。一。と。う。ふ。人。こ。よ
恨。を。ひ。ぐ。恋。復。志。へ。致。一。う。幼。推。馴。深。又。羈。き。信。乃。又。實。情。を
盡。そ。と。も。流。日。障。落。花。の。如。渠。ひ。ま。く。ち。ろ。あ。く。え。か。う。と。あ。れ。あ。そ。う。
再。び。試。セ。一。宝。刀。の。奇。特。土。太。郎。か。を。報。し。と。れ。野。火。の。滅。人。村。雨。の。大。刀。よ。う
お。う。水。氣。よ。う。華。洛。こ。上。ア。ま。く。この。宝。刀。を。室。町。殿。よ。敵。く。べ。数。百。貫。の。主。と

。立身疑ひうれりあへ。立身へあん身をも。奥みと唱させ。ヨヌの人々冊
せん歎をそぞくこの山をそくうち踰たり。負れぬ軟りを被ん。いふ
そやと身とよせ。背を抱く。身とよろ。辞巧は慰めり。

弟廿八回 仇弑罵く濱路節又死を

族を認て忠與故代譚る

濱路ハ決禁あひどよ。養親の奸曲と。綱乾が邪智をつく。同ふ。下めの
恨いゆき。こゝ脣淡き。有為轉変。假深あまう遠離る。きのふけむう旅
衣。良人の難矣を想像る。玉の緒の絶す。絶よ。ひゞ。宝刀をとり復
く。夢より。これらによく。告く丈夫。遡与ん。と。べく。將大も。
す。身を。小波をかう。轍。理。縛られぬ。えられ。辱め。恨め。との
ひ。思ひぬ入よ。身。併る。も。過世。脱。契ある。べ。犬塚。

の大刀の刃。耳熟目熟。彼人慎うけ。へ。や火急の折。す。
も謀ら。べく。あ。どう。そ。を。輒く。や。掲。晋。と。宣。不。言。手。休。く。も。口。が
進退。究り。ゆ。初。へ。情。り。く。あ。な。ぎ。と。り。ふ。と。も。宝。刀。を。掠。め。一。人。と。く。も。さ。り。つ
俱。ふ。走。き。る。あ。と。ん。と。二。親。よ。ま。疑。ま。ん。かれ。ば。か。く。家。ゆ。う。況。く。そ。の。性
ま。い。と。正。一。犬。塚。め。不。容。られ。ん。や。ま。が。そ。の。刃。を。見。せ。ま。と。り。が。れ。て。あ。ぐ。く。ち
ま。う。れ。点。頭。を。う。る。み。へ。理。り。え。信。乃。へ。心。よ。由。御。せ。だ。と。も。伯。母。丈。を。救。ん。と。く。續。く。入
ま。水。あ。く。る。折。船。又。あ。と。へ。吾。傍。一。人。そ。の。刃。を。見。せ。ま。と。り。が。れ。て。あ。ぐ。く。ち
事。あ。り。対。寔。み。この。村。兩。へ。立。身。の。傍。み。ある。のみ。ふ。あ。と。ぞ。く。妹。妓。の
契。を。固。じ。う。月。下。翁。よ。ど。く。ま。と。こ。分。便。う。ざ。證。ふ。も。抜。び。忽。地。水。氣。あり。
是。こ。の。刀。の。奇。特。き。檢。く。凝。り。を。釋。め。と。諭。し。か。を。引。援。を。く。遡。与。を
ま。め。て。み。る。刀。を。右。ふ。又。受。う。ら。か。一。尺。す。す。み。く。丈。夫。の。仇。人。と。呼。か。る。声。か。う。と。の。み

突内を刃の先さきに驚おどかせ。左より右へ蹴け沈ふ拂は跳と越え。腰こしとそれば。
から潜くわる後うしろ小立こだてを追お詰づる。かよゆる腕うで烈いた女の念力。悔くやかたん刀尖とげ。左母
二郎じろうへやまとく怒いかりく。小刀引抜ひだらす。丁ていくちろーと受うけあが。つり入いりアラク。後路ごろが乳
下破さきと砍きる。砍きりきて苦くると魂消たまなきる。声こゑ怯おぢむ刃のを踏落ふし。跳蒐とめと搔か撻うひ頭かぶ
髻きりを膝ひざより著きる。要うそ時とき疾め視しく。声こゑあり立た。牝狗奴めのわらわ今いまおもひうちおもひうちや。
情欲じようよを巴はと心こころのどけ。慰なぐらめとし。賺まねくもあくま。さる紙紙執念しきね深こも刃物の。
三昧さんまい仇人ごうじんと恨うらみる己おのとあく。さまでみ信しん乃のを亡なきくへ暇ひまとせん。
彼世かれと合あへり。よがくろ又また従従む。遊女ゆうめいと售うける。身價みけあり。化骨折かく
骨ほと骨ほ。小已おのと死活しほと賣物うぶと傷いたとばそれゆ詮せんう。飽あまぐるをふ
ほくかく。報ほうひへ覲面くわんめい早はやく殺殺さく。うぶく殺殺すよ
旅宿りゆしゆの後あと然ぜん慰なぐらく熱湯ねつとうを冷さん。この世このよの名残なまごもあばあが程ほどそばへ

あくよひへり。あく月つきの歩あるまぐ。聽聞ききせんと引立ひだらく。間違まちがふ突輶つも。村雨むらあめ
大刀掩取おとし。鞞きを納なめく。腰こしと帶たすき。小刀を大地じだいと衝立つぶさて。あくよひの株ねと尻しり。
掛懷かげ中なかあく畠紙はたき。銀子ぎんしを捌くわり牛うしと頸くびを搔かく。些すこの鬚頬拔ひてをう。
さる程ほど小濱路おはなじへ既既く炎所えんしょの深痕ふか。絶絶えんとく。玉たまの緒おと。良人よしと引ひく
すう。起直起きく。乱髮まつげ。額あたまふからを振拂ふひ。恨うらむたま左母さくめ二郎じろう。あく
女子めのとあくよひ。理りを伴とものとあくよひ。よつとくぬ更よをあくろ。貞じやうとよよ養なう
親おやと相あわ譚はな。宝刀たからを掠くわめく。良人よしを死地しじと脂あぶせ。邪智奸惡えちかん。いといと一
大刀怨おとしんと竹たけ。されど本意ほんねを汚おと遂と。邪智えちの刃のが現身げんしんの命めを限かることことへ
えよ月つき日ひへ照あらへり。よか。こよね遇あせの惡報おとし。缺くずさゆき。その心こころとあくよひ。良人よし
の性たまあく。今いま一いつつつのあくよひ。亡なきらん後うしろよつとく。かくよつとく。みゆか。誰だえ
告おん。散ちあく世よの中なか。うくて死死ぬへ。おえ。稚わらわた時とき。うう二に親おやと許ゆされ。うう妹めと

せ。のふる
神りまし世故と恨みう泣くありく。ふ思ひあまりくかん口説く。言葉の露を
結びあひて。脆たへ女子あらなり。左母二郎へ欠伸く。鎌子よ著く。鬚推
ぬ。拭ひ。あらかじく。此諱言。謂をやけへ。有ぐれ親のあら孝女でも。
信乃が為み。貞女でも。口ぶる。あらもぬ。あら。命を惜む。夫のると
久がり。助けぐ。寔よ至益の發生も。皆是已。心く。脆く。見えくも。
はよん。命根。ちと。灸所の深瘻。長物語へ感心。寝美。口。一
あら。この世の暇。取れ。せんぞ。いざく。と。ひき。食ふ。鎌子を。邊。懷
夾め。地上。樹。小刀を。抜く。内り。と。せんぞ。食ふ。鎌子を。邊。懷
と。おの。よけ。等。一等。飽。大。瀆路。命。被。村。兩。引。導。せん。豈
教。あら。と。あざ。笑く。小刀を。拭く。鞆。納。腰。帶。又。村。兩。の。刀。引
提。親念せよ。と。立。かれ。濱路。駆。頭。擣。仇人の。ひ。死。大丈夫の

せ。のふる
使。名。あく。添臥。せ。實。の親。胞兄。弟。も。煉馬殿。脚。肉。あ。と。
灰。骨。のみ。名。あ。と。顔。認。年。あ。恋。と。ぞ。あり。ひき。や。
去。歲。煉馬家。亡。せ。老黨。若黨。皆。殺。れ。き。と。世。上の。風聞。ふ。憂。の
数。才。瘦。三。重。帶。環。り。あ。圓。塚。の。野。火。むろ。共。滅。て。ゆ。
集。か。あ。独。行。か。あ。る。も。二。親。非。笑。非。道。え。り。の。く。故。が。惡。乃
資。成。九。世。か。の。と。竭。ぬ。怨。へ。後。竟。そ。の。身。報。ざ。づ。れ。欲。
人。恨。ミ。才。の。薄。命。も。縁。の。起。へ。外。う。と。歎。え。ア。ん。ぬ。キ。で。ふ。情。あ。き。へ
中。恩。も。の。養。親。達。恋。一。死。大。塚。ぬ。口。魂。へ。此。山。の。裾。野。の。沼。水。鳥。と。あり。ほ。許。
我。へ。東。の。間。より。む。良。人。よ。告。口。す。よ。惜。ぬ。命。尚。惜。む。恩。愛。節。
父。の。為。再。び。丈。夫。よ。あ。日。あ。く。實。の。親。の。存。亡。を。あ。る。よ。あ。ん。そ。の。日。あ。く。
有。鑿。よ。惜。き。命。ぞ。う。あ。甲。夜。あ。み。この。山。を。踰。え。ぬ。入。ら。ん。や。助。く。

力ふるむへ奉望。とくに殺せ左母二郎。汝も亦遠えど。最期へかくあらんと
うせも果を眼を瞪す。憎た女が難言。息の根轢んと引著て胸前刺ん。
と見よと刃の光よ先づく。火定の坑の邊よも。誰ともあらず。打牛たり煉
の銃鏡行はざ。左母二郎が左の乳下裏かくまで。火定の痛みみ
と見る事。ええ。左母二郎が左の乳下裏かくまで。火定の痛みみ
雲時も忍堪じ。大刀あり落しく苦と叫ぶ。声うち共々仰反す。時々又怪む
べ。坑のほどうか忽然と立頭よりのあきけり。是則別人あらず。火定が終を
示す。寂寞道人肩柳あり。初より異ある。形容亦是甚麼う。打牛ぞ
但見脣より缺舌。南蛮鐵鎗の纏身腹甲を透間もあく。領具と細小蟻
毛の蜘蛛み似す。桂より唐織。段筋の廣袖の單衣を裾短く被
き。秋葉を流す。泉の如し。腰より朱鞘の大刀を跨足する。袂藁の
厚鞋を穿。大平金の細密釘。十王頭の臍指。濃紫なる圓括乃

帶鬚高身紈。齡ハ尚青年二十左右。ふゆやあそん。眉秀眼清く。
色素。脣朱く耳厚く。齒細。月額の迹長く。生らる。髮烏。とく。
鬚蒼かり。その志望善乎惡乎。その行法正乎邪乎。つまづ分解せざれ
ど。一ト癖あり。死回魂。凡庸あり。と見えり。當下寂寞肩柳。左邊
右邊を見え。徐み歩。程より程。左母二郎へ呼吸環會。敵邊つてぬ。
と立。銃鏡引抜捨。刀を杖。身を起。躍る。較んと
進む。うち見ゆるの。此も騒ぐ。彼此霎時遭遇して駆惱し衝と入り。く。
矢庭。刀を奪取。身を起。磇と砍る。卷の刃。左母二郎へ筋斗を
撲。倒さり。肩柳これより目をみ。頻々水氣立。冲る刀の鞘を推立。く。
刀尖。鋸下。瞬せば信と見。現音か。やく。村西乃宝劍抜。玉散る。
露。雷。奇へ妙。焼刃の盡。天。虹蜺の引く。地。清泉の流す。

似たり。豊城三尺の氷。呉宮一函の霜。寛み世稀。稀。神龍。空。がぬ。又
 雲。吟。鬼魅。この故。夜天。今。とて。この名刀。口。ふみ。入。一人。
 復讐。の素懐。を遂。時。到。ま。軟寄。寄。と。左。ふ。移。右。ふ。か。て
 又。さ。み。と。ど。も。飽。嘆賞。の外。餘念。へ。え。く。す。案下。某生。再説額。差。
 この朝。信乃。別。是。く。り。そ。と。ほ。と。後。へ。の。心。引。と。歩。果。敢。ど。を。あ。う。ゆ
 盛暑。の時。う。き。べ。樹。蔭。求。と。彼。此。休。ひ。く。又。走。ま。る。千。桂。河。を。渡。と。比。日。を
 暮。果。く。途。り。と。暗。い。迷。ふ。づ。れ。程。み。ハ。あ。み。を。い。ふ。して。う。け。抜。く。駒。込。村。乃
 こ。あ。え。ま。う。さ。み。か。う。脅。く。心。つ。ね。そ。へ。立。候。る。と。も。途。よ。損。あり。卒。鄉。坂。を。横
 き。り。く。砾。川。と。り。そ。と。お。ふ。よ。こ。ぶ。身。假。傷。造。と。ん。み。そ。あ。く。よ。迂。路。と。月。の
 火。定。あり。と。途。み。く。使。一。茶。毘。ハ。り。ま。ご。滅。ぞ。く。そ。の。邊。明。か。り。け。つ。く。と。これ
 れ。ば。鮮。血。と。塗。れ。つ。仆。も。る。男。女。あ。又。白。刃。を。み。ふ。拿。る。一。個。の。癖。者。立。在。り。
 ち。う。そ。あ。う。め。と。端。あ。く。進。や。ぎ。松。の。樹。蔭。と。躲。ひ。く。そ。の。為。体。を。窺。ひ。け。り。さ。る
 と。お。り。う。と。肩。柳。の。鞋。と。う。揚。く。刃。を。納。め。よ。う。臥。う。瀆。路。が。ほ。う。ふ。へ。ゆ。そ。安。を。引
 起。し。遼。く。懷。中。ト。や。と。藥。を。そ。う。知。く。口。み。衝。一。女。子。こ。と。以。活。う。声。も。藥。も。き
 え。て。や。見。き。バ。怪。一。た。必。抱。よ。う。ち。散。馬。な。く。只。管。よ。あ。う。放。さん。と。向。搔。じ。も。肩。柳。の
 き。ほ。み。を。放。を。ど。り。ま。ご。縁。故。を。告。ぞ。こ。ぶ。姓。名。を。告。が。き。バ。仇。怨。賊。歎。と。疑。ひ。く。
 驚。な。せ。ん。お。そ。玉。も。と。ん。深。瘡。う。と。ど。も。餐。所。と。あ。う。ぞ。心。と。鎮。く。よ。ふ。心。ふ
 る。み。を。や。く。今。般。小。志。願。を。遂。よ。と。り。れ。と。息。を。吻。と。つ。れ。さ。い。ふ。ち。ん。身。へ。何。人。ぞ。
 と。向。て。顔。を。う。ち。目。成。き。ば。我。も。うち。見。て。嘆。息。一。名。告。き。ハ。憚。う。え。ふ。あ。よ。ね。ど。
 夜。の。繁。山。外。と。入。る。あ。小。圖。ら。ざ。環。會。一。こ。と。へ。則。そ。う。く。の。る。小。異。母。の。兄。大。
 家。み。ち。ま。う。ど。も。と。山。道。松。忠。與。と。ゆ。き。一。の。故。あ。り。く。去。歳。の。秋。よ。う。姿。を。変。名。を。更。め。寂。寢。院。

名刀美
忠義節
操乃環會

道松忠與

石屋路

山書堂藏



肩柳と世ふ唱を假修驗ゆ所多く火定を示一愚民の錢を促す軍用のみ。君父の讐言を報ふあり抑ひ主君煉馬平左衛門尉倍盛朝臣。豊嶋平塚の一族共侶池袋より轂をもひて父大山貞與へ道道東大人トよ。自餘の老黨貞を竭く。冥土のあん供をもつけまへ煉馬の館も焼敷せれり。生残る身の絶く。これ亦命を惜むよあらねど組ぐ死も死敵ふ逢ね。不思議は戦場を殺奔て遂に復讐の大義を企家と傳る間諜の秘術。隱形五道の第二法火道の術を行ひ。修驗者ふ容を亦或とんへ烈火と踏く。愚民ホは信を起させ。又或とんへ火定よ終を示し。錢を召び財聚めて。軍用ふえんとほふ火と投ると見えせく。火ふ投らば。全身焼亡うと。ありハセ。火の外は姿を隠す。これを名づく火道と。りふ大約隱形ふ五法あり。第一を木道と。樹と倚よたる形と隠す。敢亦顕す。第二を火道と。

りふ火と遇ふと。形を隠す。よく人ふ見ゆる。第三を土道と。此も是きの足地を踏まし入ふ形をえまし。壁ふ段り。先ふ隠す。首尾土道のまえ。第四を金道と。金銀銅鐵をりく。よくそめ形を隠す。第五を水道と。六久く水ふ没く苦まし。又唯一均の水をぬる。よくそめ形と隠す。これを隱形五道と。原是張道陵が道術。唐山より漢末より。今明朝もこの術をよくほり。我朝より六條院の仁安年間伊豆の修禪寺小唐僧あり。且獨木道の術を得す。後ふ竊ふ兵衛佐頼朝。僧人。石橋山の敗軍。頼朝伏木の虚を隠す。虎口を道れ多ひ死と。み實ハ木道の術を行ふ。又吉岡紀一法眼。火道の術をぬる。あり。あるとも人ふ授け。源牛若丸の秘書を竊。圓て亦火道の術をぬる。文治不高館落城の日。義經既に戦勞。城ふ火を放。自焼す。塞外ふ逃走。

さて火道の術より是のうん。この後又三房術を行はせしものあつてゐる
かと獨りが家祖先より火道の一書を相傳せり。ちとぞその書奇字隱語
をくわすかの絶く。吾脩年十五のとき。ひらくその書を披閲し。聊發明
あり。是より是く夜とる日とく。讀誦工夫する。二年遂にその奥
旨を悟る。あとはどもその法術。左道にて幻術に相近。勇士の行へて死ふ
あらば父より告げ入る。授けど試るとる。ふ今や君父の讐敵。管領扇谷
定正。ホを轡さんとあひふ。一人の資う。人のころ成結ん。金錢よまぬあるし。
と尋思。又墓あらん。火道の術。火定の詐欺り。愚民を欺だ。彼此多く。
些の錢を獲る。そなへてその地を立た。今茲へ下野下総。武藏の豊
嶋を參る。さく不も火定の詐欺り。逸み残を召す。ども。づく。あへ。欲き
所忠孝。又少く実へ賊。り。継業の資を没く。大敵をうち滅ぼす。かる不良

の吉えを。人を欺だ物を掠へ。ふ汚名を迷さん。と悔く。も正あれ。ゆふ。
志成。費せ。鳴呼え。と慚愧。堪忍。恥く。隠家。ふ退。假鬚。とがふく。捨。
舊の姿。更めろ。者むろえ。とも定正。を。粗轡。ひとひ決めて。再び。踰る圓塚山。よ
り。残る。一人。敵。の。癖者。ひと艶女。を。掲掣。と。こひく。通る。色情利
慾。よ。後ざれ。べ。怒。よ。衆。よ。遂。よ。女子。よ。ひ。を。負。せ。る。あ。ふ。ち。ふ。多。く。此。彼。の。怒。罵
哀傷。を。窮。せ。く。ふ。女子。へ。大塚。の。村長。墓六。が。養女。え。濱路。とり。ふ。へ。今。の。名。あ。うん。
これよ。異母。の。女弟。あり。乳母。を。正月。とり。彼。二才。已れ。へ。六才。の。いろ。あ。べ。云。云。の
故。あり。く。豊嶋。郡。大塚。ち。る。村長。墓六。と。う。り。ふ。の。ふ。生涯。不通。の。約束。あ。く。ふ。
養女。ふ。遣。し。る。と。父。の。告。を。あ。ひ。へ。こ。き。あ。べ。と。お。ひ。ふ。その。危窮。を。あ。う。は。凶心
ひ。を。銃観。を。す。く。女弟。が。仇。を。敵。よ。く。う。り。や。く。ふ。そ。み。く。へ。幼稚。よ。り。結髮。の。夫

あり。かの苦節を成さん。命を惜む。仇を罵る。又実の親同胞を多く慕ひ、心稼貞めとく又孝あり。あれども本意を遂ぜぬ。亦彼処にあらず。故ふとの邊へ。事のあみ及べし。天鑒地知の疎みて。善惡を差別ふ他これとも。亦是輪廻の致と。とく汝脱き。因縁あるとん言長くた苦痛を乞ひ。迷ひを散へ。とある母へ黑白とゆゑど。これが父の妾あり。これが母を阿曼非とりて。亦是父の側室ある。ども男子を産ら。徳又依く。嫡妻ふせよ。とある。かの父道策大人の内室早世をされど。又後妻を娶り。子孫のあつ側室を畜す。一兩年を過一。ふと是え。子むべくもあらず。又一妾を畜あひ。初の側室へ黑白す。後又あるへ阿曼非。そみとえ。が父戯れ。又妾の宣く。汝ホ両人難ゆ。男児を産る。かの後妻又せんと約一多ひ。かく阿曼非へ有身。長禄三年九月戊戌の日。ふ男児を産て。多ひ。

出生の子ハ則られ。され生ながり。左の肩尖。大死す。瘤あり。その散松の癪。似。と呼れ。十五歳の春元服。名を忠興と。命せ。父の欲。推て知る。約束あり。母を。正妻。小。推の子。一多。又。黑白。姫。怨。氣。色。あ。と。寛正三年の春渠。ハ。女の。子。を。産。け。臨月。早春。う。け。女。の。子。を。正月。と。名。つ。正月。ハ。妹。そ。の。の。多。さ。所。程。小。黑白。ハ。これ。よ。後。よ。來。ア。阿。曼。非。ふ。と。や。男。児。を。産。せ。る。コレ。後。れ。て。女。の。子。を。産。く。六。日。の。菖。蒲。十。日。の。菊。そ。き。み。ゆ。か。く。あ。ふ。か。い。う。こ。ふ。ま。と。よ。と。堪。ぞ。や。あ。と。け。寛正四年の春。の。を。ゑ。こ。う。父。ハ。主。君。煉。馬。歟。の。使。者。と。く。京都。將。軍。家。へ。往。候。の。折。黒。白。ハ。今。坂。錠。庵。と。の。醫。師。を。竊。よ。相。諱。て。こ。う。母。を。毒。殺。し。吾。脩。を。縊。殺。し。時。疫。ふ。く。母。ゆ。子。も。暴。小。死。ま。る。と。偽。り。と。菩。提。寺。へ。葬。け。り。そ。の。月。の。下。院。こ。う。父。京。都。の。官。勢。と。り。く。下。向。の。旅。宿。ふ。凶。夢。

まかり。とまより日毎々凶向うち騒げば。ころりよく安をも。夜か日又繼て煉馬又
飯著。様子を問へ妻子の頃滅葬モロコシをせ日あまり。一兩日と竹えーぶ驚け
憂哀モロコシ。次の日寺へ詣。墓所モロコシ香華を向あふ。墳下モロコシ當りそ。小
児の啼声モロコシけとへ更よ驚た怪モロコシ住持モロコシ告ぐ。人を聚へ發せくアキフモロコシ
吾脩モロコシへ則誕生して啼モロコシとまどく甚モロコシ一輪モロコシと技出モロコシこゑ死モロコシあふふ異モロコシうと
う。只肩モロコシ瘤の上モロコシと黒モロコシあう瘡モロコシ生て形牡丹の花モロコシ似モロコシ。噫痛
あんモロコシ母モロコシ全體既モロコシ腐爛モロコシ。ひふとあさぎにバ舊のふくふ埋葬モロコシ。
父モロコシ吾脩モロコシを携モロコシかく。ちづ主君モロコシゆ竹えあげ。俄頃モロコシ奴婢モロコシホを召よせそ。そ
の起死告モロコシ。この年吾脩モロコシ六歳モロコシ奴婢モロコシホを聚會モロコシ折父モロコシ對ひて箇
様モロコシ箇様モロコシ如モロコシこのるモロコシ。母モロコシ非命モロコシ世モロコシ去モロコシ。吾脩モロコシ合葬モロコシせれ。う
仇モロコシ則黑白モロコシ。そ岱資モロコシ癖者モロコシ鍵庵モロコシと告モロコシ。父モロコシ再び散居モロコシ怒モロコシ。即

座モロコシ黑白モロコシを縛モロコシ。みづモロコシ鞠モロコシ向モロコシ志モロコシ。あざく陳モロコシうけモロコシ。物モロコシが馴モロコシてや
いづせけん。小児モロコシ。もぞめモロコシ。ひモロコシ。もモロコシ。あモロコシ。つモロコシ。うモロコシ。
捕モロコシ。責モロコシ。問モロコシ。そぶ首伏モロコシの趣モロコシ。黑白モロコシと異モロコシ。とろけモロコシ。此彼齊モロコシ一法モロコシ。ち
まモロコシ斬罪モロコシ。梶首モロコシせきし。あモロコシ。ども。父モロコシの怒モロコシ。あほモロコシ。かまモロコシ。うモロコシ。正月モロコシ二歳モロコシの
女の子モロコシ。ども。その母大逆無道モロコシ絶モロコシ。子モロコシとさざモロコシ。生涯不通モロコシの誅モロコシを受モロコシ。
まづ死モロコシ。と取モロコシせんモロコシ。そみ人モロコシを求モロコシ。外聞モロコシを憚モロコシ。世モロコシ忌モロコシといふ四十二の
二才モロコシ。兒モロコシといひあらえ養育モロコシの料モロコシ。永樂錢七貫文モロコシを齎モロコシて大塚の村長墓モロコシ六モロコシ
ひづみモロコシ。養モロコシの取モロコシをあふとあんモロコシ。へこが年十二の春母モロコシの七回忌モロコシの折モロコシ。そづく
父モロコシの告モロコシ。せりひを覗モロコシ。従モロコシは六才モロコシのとき黑白モロコシが惡事を告モロコシ。と一点モロコシぞうモロコシ。あ
尾モロコシをちびえモロコシ。ちみをあめく母モロコシの横死モロコシ。そまくのるモロコシ。巨細モロコシ。懷舊モロコシ乃淚

禁不^シ移^シ。つと想像^シへ正月もちるド父の子あは母と母^シ々^シ怨敵^シ親の
棄^シせらひ一女弟を^シと豈^シ見^シうよ^シあはんやと心^シみ白^シこの後の父^シ向^シぞ。
父^シ亦再びりひ出^シタリバ忘^シ如^シ年^シを歴^シ。ちかひ^シけあはれ今宵^シの再會^シ且
躰^シひく竊聞^シ。そみ心^シざる實母^シ小僧^シ。貞實^シく孝順^シ然^シ爲^シ傳命^シかく
の如^シ邪淫^シの養父母^シへ事^シども。ちかひ^シ郎^シふあはと叶^シ。無慙^シの癖者^シ逼
迫^シ。まがゆ^シ害^シする輪廻^シよりく解^シ。実母黑白^シか惡逆^シの餘殃^シ
一色りへた軟^シきとも父の子^シ豪奪^シせらきと身^シを汚^シ。死^シ至るまで
操^シを^シえど。今般^シも親^シを^シえ。そみ負^シそみ孝空^シで不憶兄^シ又^シ懲會^シ即
坐^シ小仇^シを殺^シを及^シびく。その歎^シとぞろ此彼苦^シ。瘻^シハ左の乳^シの下^シ善^シみ^シ必
善報^シ。惡^シ必惡報^シ。今生の薄命^シハ實母^シの故^シかくの如^シ欲來世^シそみ
身^シの功德^シよりく。佛果^シを^シえんと疑^シひ。そみ孝心^シを告^シふ由^シの父^シ煙馬

家第一の孝臣^シ。後妻の横死^シよ^シまく。ヨ^シ德薄^シと慚愧^シ。遂^シ小主君^シ
き^シ付^シあはく。祝髮入道志^シ。家老職^シ。舊の如^シ。かく去年他袋^シ戰^シ。よ
比類^シ無^シ。勵^シ。管領定正^シ。家臣。寔門三宝平^シ。數^シはれタヒ^シ。享年六十二
矣。され復讐の志願成ら^シ。亦復讐の^シ。死^シ。苟且^シ。修^シ行^シ者^シ。姿^シ
か^シ。因^シあれば又^シ世^シを^シえ。鳥^シ髮^シの入道^シ。父^シ法名^シを^シ象^シ。大山道節忠
與^シと名^シ。告^シ。かれ^シ數^シと^シ數^シと^シ。存命^シ。べくもあらず。身^シの後^シ先^シ冥
土^シの伴侶^シ。父尊^シ。天^シ。勸解^シ。守りて。身^シ後^シ。親子^シの對面^シ。させん。それを今般^シ
お^シひ^シ。お^シせよ。女弟^シこと叮寧^シ。説示^シ。又^シ勦^シ。身^シ負^シ。熟^シ。勇士^シの如^シ
抱^シ。猛^シ。見えても骨肉^シの誠^シ。あふ^シ頭^シ。視^シ。一回の長物語^シ。十九日乃
月生^シ。野火^シ。ふ代^シ。明^シ光^シ。亥中^シ。も^シ深^シ。子^シの時^シ近^シ。る^シ。

里見八犬傳第二輯卷之四終

